

そこで、この26度、66度というのは設計値ではなく、これら3基の60m鉄塔を建設した後、図面に書いた鉄塔の位置を分度器で測ったのではないかと思える。鉄塔②からフランスのボルドーに向けた地球の大円を描く角度に設計したはずだ。

この空中線について書かれた部分は下記に記事である。

(一) 空中線。

高さ200尺、三既支線所鉄塔三基に空中線は16番七ヶ捩り、鋼線を次つて、スパン700尺、中心高約180尺、地上高24尺、線索間隔1.5尺のルーフ空中線二条一組と互いに直角に二組架設した。鉄塔の位置は空中線の方向をボルドー方面に向けるため北西へ26度、他はこれに直角に北東へ66度と為した。

方位測定は橋元昌光技師が専り、大学管絃課神谷乙次郎氏、所合天文台技手、穴沢逸俊技手、二田市測地学委員会技手が神助として鉄塔の位置及ベースの位置を決定した。

鉄塔工事は大正十二年十二月七日から黒枝鉄工所の手に依り（実際は安藤鉄工所）建設工事に着手した。

写真1は、東京天文台南東部先端近くにあったブラッシャー天体写真儀ドームベランダから撮影した写真に写った鉄塔に、図1の鉄塔の番号をいれたものである。

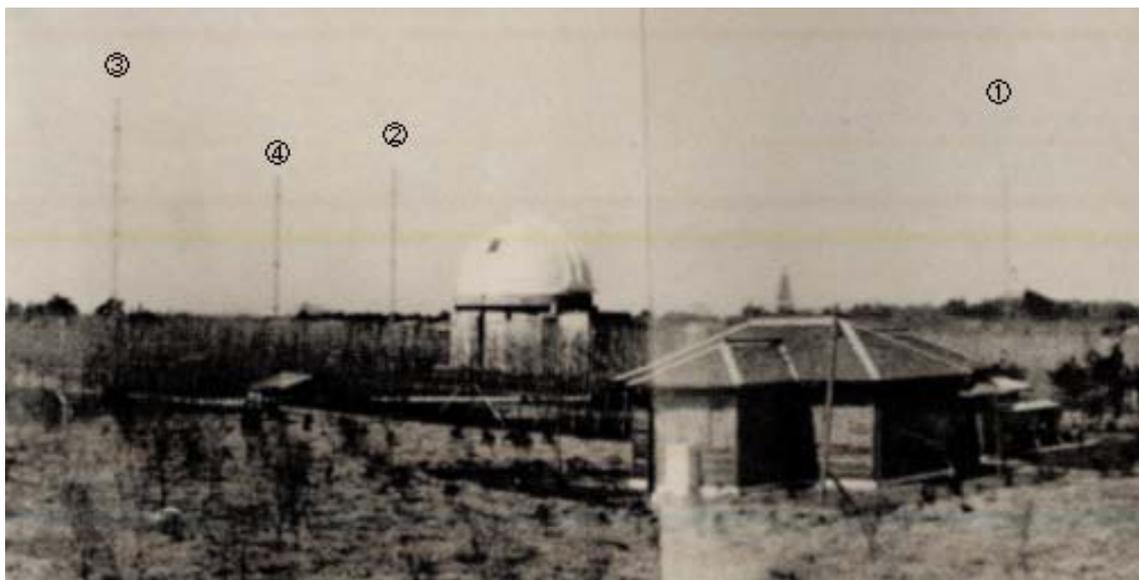


写真1 ブラッシャー天体写真儀ドームから撮影した景色